

こころと命を支える本

小諸図書館からお届けする、こころと命を支える本のリストです。



[いのちを想う] いのちとは…。じっくり向き合ってみてみたい時におすすめ。						
書名	著者	出版社	出版年	内容	本の場合	請求記号
ありがとうおかげさま	下村満子	海竜社	2015	村上和雄、稲盛和夫、渥美和彦、米沢富美子、中森じゅあん、下村満子の6人が「命」「生きる意味」について語ったシンポジウムでの基調講演や発言を再構成、一部加筆して単行本化したもの。	医療1(こころとからだ東面)	114.2/シ/
人はどうして死にたがるのか	下園壮太	文芸社	2003	「死にたがる心」はどこからくるのか？人は本当に死にたがっているのか？自殺は人が原始からもっている「生きる」プログラムの誤作動であるという視点から、カウンセラーとしての体験を交えて、「死にたい気持ち」を解説。	医療2(こころとからだ東面)	145.7/シ/
いのちの言葉	日野原重明	春秋社	2002	生きがいは、自分を徹底的に大事にすることから始まる。ヴィジョンとは遠くにあるものではなく、私たちが踏んでいるその足元にある…。開いた頁から希望の光があふれる、心ゆさぶる名言集。	医療3(こころとからだ04.05)	159/ヒ/
子どもたちの遺言	谷川俊太郎	佼成出版社	2009	大人よりもはるかに死から遠い子どもが大人に向かって遺言を書くという発想から生まれた詩集。生まれたばかりの赤ちゃんから、成人式を迎えた若者まで、生き生きとした子どもたちの姿を捉えた写真が印象的。	文学(こもれび12)	911.5/タ/
いまを生きるちから	五木寛之	日本放送出版協会	2005	この時代を生き抜くちからはどこにあるのか。生命の重さをどう取り戻せばいいのか。悲しむこと、泣くこと、情、信仰心、寛容と共生など、日本人の「和魂」をいまいちど考える。NHK「人間講座」のテキストを中心に単行本化。	エッセイ(こもれび13)	914.6/イツ/
生きる意味を教えてください	田口ロランディ	バジリコ	2008	「どうして人は人を殺すのか」「どうして社会は良くならないのか」「人はなぜ死ぬのか」この世の矛盾や、残虐や、やりきれなさについて、考えている人たちがいる。答えの出ない問いをめぐって交わした9人との対話の記録。	こもれび13エッセイ	914.6/タク/
ブナの実はそれでも虹を夢見る	丸山健二	求龍堂	2012	どうして私たちは、ただ生きているだけで楽しいと思えるような生き物ではないのだろうか…。種から育て、20年を経て花を咲かせたブナの木から小説家が学んだ、生きる命のあり方。	医療1(こころとからだ東面)闘病記	914.6/マル/
命のカウンセリング	長谷川泰三	あさ出版	2010	15歳で交通事故に遭い、一生歩けなくなった。「死のう」と向かった東尋坊で、少年が出逢ったものとは…。車いすのカウンセラーが伝える、大切な人の命を救うためにできること。	医療1(こころとからだ東面)闘病記	916/ハ/
いのちのおはなし	日野原重明	講談社	2007	いのちは、どこにあると思いますか？友達同士で心臓の音を聞いて、生きている証を確かめたら、今度はいのちについて考えてみよう。95歳の医師、日野原重明先生が小学校で行った「いのち」についての授業の絵本。	絵本(すみれ10~13)	E/イノ/
くまとやまねこ	湯本香樹実	河出書房新社	2008	突然、最愛の友だちのこたを亡くしてしまった、くま。暗く閉め切った部屋に閉じこもっていたが、ある日やまねここと出会った。やまねこは、くまのためにバイオリンを弾いてくれて…。	絵本(すみれ10~13)	E/クマ/